

海外自治体幹部交流協力セミナー2016（シドニー事務所管内）

地方交流事業概要

2017年2月15日（水）【移動（東京都→益田市）、市長表敬訪問、行政説明】

参加者は益田市へ到着後、山本益田市長を表敬訪問した。その後の益田市職員による観光に関する行政説明では、まず、島根県が外国人の宿泊者数が全国最下位であること、益田市での滞在時間がわずかであるといった現状の課題が説明された。その後、益田市が観光資源として認識している観光地が外国人の目からどのように見えるのか、及び益田市近隣の市町との観光に関する連携の方向性を外国人の視点で模索したいといった益田市の今回のセミナー受け入れに関する主旨が説明された。参加者からは、オーストラリアでもどのように滞在時間を延ばし経済効果を生み出すかが問題になっているという意見が出され、共通の課題を認識した。参加者は益田市の視察において、しっかり意見を言いたいという気持ちを改めて感じているようであった。



市長表敬の様子



行政説明の様子

2017年2月16日（木）【松永牧場、右田本店、萬福寺視察、中世の食試食、石見神楽鑑賞】

（1）松永牧場視察

まず代表取締役より、家族経営から株式会社まで発展した会社の歴史、繁殖・肥育・販売という一貫したシステムづくりの説明を聞いた後、牛舎を視察した。参加者からは、牛の品種や企業として農業を経営する難しさ、及びTPPが牧場経営に及ぼす影響などについて質問が出された。放牧型のオーストラリアの牧場と異なり、柵に入れて飼育している様子に驚いており、帰りのバスの中では、日本の牛肉の品質の高さを売りにして、牛肉に関するイベントを開いたらどうかという提案があった。

（2）右田本店視察

日本酒の製造過程を視察し、日本酒の試飲を行った。視察中には、製造過程ごとに米の品種や焼酎との違いなどの質問がだされた。4種類の日本酒を試飲したが、女性参加者は桃色に色づいたにごり酒に「かわいい」という声があがり、味も気に入ったようであった。また、男性参加者は江戸時代からの製法で作られた生もと仕込みの商品に顔をほころばせていた。

（3）萬福寺視察、中世の食視察

益田市が推奨する観光素材の一つである萬福寺では、19代益田藤兼、20代元祥父子が毛利元就と和睦するために、もてなした食事を「中世の食」として試食した。益田氏と毛利氏の関係についての説明は少し難しそうな顔をしていたが、給仕のもてなしが素晴らしかったと話していた。また、益田市ゆかりの画聖である雪舟が作庭した庭にも大変感心しており、写真を撮ったり、眺めたりしてゆったりとした時間を過ごした。

（4）石見神楽鑑賞

宿泊旅館である荒磯館で夕食を摂りながら、益田市を含む石見地方に残る伝統芸能の石見神楽を鑑賞した。4体の大蛇の登場に参加者は興奮した様子で、箸をとめ演技に見入っていた。ストーリーについても理解できたようであった。最後に神楽に使用した衣装を試着し、衣装の重さに驚いた様子を見せていたが、絢爛豪華な衣装に喜び写真を互いに撮りあっていた。



萬福寺にて中世の食体験



石見神楽鑑賞の様子

2017年2月17日（金）【日本遺産センター、本町・殿町、太鼓谷稲成神社、キャスセンター視察、津和野町長表敬訪問・意見交換】

（1）日本遺産センター視察

日本遺産センターでは津和野百景図の説明と伝統行事を保存するために作成されたパネルを観察した。参加者からは、伝統の鷺舞の伝承方法や増築する際の決まりについて質問が出され、百景図を用いた観光の促進とともに伝統の保存に尽力している様子に感心していた。

（2）本町・殿町視察

日本遺産センターで見た百景図の様子を実際に本町・殿町を歩きながら視察した。平屋が軒を連ねたり用水が整備され鯉が泳いでいたりする街並みに参加者は魅了されたようであった。また、町を囲むように聳える青野山も百景図に描かれており、雲がかかった青野山を写真に収めていた。

（3）太鼓谷稲成神社祈禱

朱色の鳥居が目立つ神社で参加者は旅の安全を祈る祈禱を受けた。神社での儀式の流れや方法について予め説明がほしかったという声もあり、外国人旅行者が祈禱を体験する際の反省点も見られたが、参加者は自分たちの名前と出身地が読み上げられたことに喜んだ。

（4）津和野町長表敬訪問・意見交換

津和野町役場では下森町長を表敬訪問したのち、津和野町の視察地について意見交換を行った。津和野ならではの観光地があること、その景観地の保存に尽力していることが参加者から評価されるとともに、観光客に対するお店の方々のもてなしが素晴らしく、歴史文化があれば地域の人を生かした観光が一層必要であるとの意見も出された。一方、改善すべき点としては、ガイドの必置やWi-Fiやアクセシビリティに関する事前の情報提供が挙げられた。また、外国人観光客ならではの意見として、外国人が日本で滞在できる時間は限られているため、旅行プランを提示してもらい選択できればという意見もあがった。

（5）キャスセンター

わさびやアユの凍結を行っているキャスセンターでは、鮮度をそのままに閉じ込めた食品の試食を行ったり、実際に施設を見学したりした。参加者からは、凍結技術の導入目的や他県への展開について質問が出された。



津和野町散策



津和野町意見交換会

2017年2月18日(土)【ホームステイ】

2017年2月19日(日)【萩博物館、明倫館、松下村塾、反射炉視察、城下町散策】

(1) 萩市歴史探訪

中世から近世の歴史という視点で益田市・津和野町と一緒に観光に取り組む萩市を訪れた。まず、萩博物館で幕末から明治維新にかけての歴史を概観し、実際に城下町を散策した。当時の人口や戦争の様子について参加者から質問があった。松下村塾や反射炉を実際に見ると、当時の歴史が参加者の腑に落ちてきたようであった。また、城下町の雰囲気が残る萩の町並みがよかったという声もあった。



萩博物館視察



城下町散策

2017年2月20日(月)【県立石見美術館、益田糸操り人形、帰国前意見交換会】

(1) 県立石見美術館

「大きな屋根」を意味する劇場と美術館の複合施設である「グラントワ」で美術品の展示を見るとともに、建物を見学した。石見地方の伝統工芸品である石州瓦を後世に伝えるために6種類の石州瓦を用いて建造された建物に参加者は驚嘆していた。

(2) 益田糸操り人形

益田市の観光素材の一つである益田糸操り人形では、3つの演目を鑑賞したのち、実際に糸操りを体験した。日本語は理解できないが人形の動きを通して、ストーリーの概要は理解できたと話していた。糸操り体験では、人形の重さと糸を通して人形を動かす難しさを感じていた。

(3) 帰国前意見交換会

意見交換会では、益田市には有数の観光素材は既にあるという前提のもと、いかにその素材を発信していくかが主要なテーマとなった。その中で、益田市・津和野町・萩市は行政区域にとらわれずエリアでPRしていくべきであり、空港のある益田市はその玄関口として位置付けられた。また、中世の歴史は観光素材として十分であるが、欧米の観光客には時期尚早であるため、雰囲気を体験するなど親しみやすいもののほうがよいのではと言った率直な意見も述べられ、実り多い意見交換会となった。



益田糸操り人形操作体験



意見交換会の様子

2017年2月21日(火)【雪舟の郷記念館】

(1) 益田市ゆかりの偉人の一人である雪舟の業績を学ぶため、雪舟の郷記念館を訪れた。2月16日に萬福寺で実際に雪舟の作庭を見ていたため、説明を真剣に聞いていた。記念館に作られた枯山水の庭にも興味を示し、椅子に座り眺めるとともに写真にも収めていた。